

令和4年10月5日

押原小学校保護者の皆様

昭和町立押原小学校
校長 深澤 秀興

押原小学校の子どもたちの学力と生活の様子
－ 「全国学力・学習状況調査」の結果から －

本校6年児童は、4月19日に、国が実施する「全国学力・学習状況調査」を行いました。本調査は、国語、算数と、3年ぶりに理科を加えた3教科、及び学習意欲や学習方法、生活の諸側面等に関する質問紙調査から構成されていました。

この度、校内における結果分析が終了したことから、ここにお知らせ致します。

なお、本調査は6年生を対象に行われたものではありませんが、押原小学校のこれまでの教育活動の成果と課題とも捉えられることから、現在の「押原小学校の子どもたちの学力と生活の様子」として、全学年の保護者の皆様方にお知らせするものです。

本校では、この結果を踏まえ、今後とも授業改善に努めると共に、新たに作成した「家庭学習の手引き」及び「Check & Action」を活用し、「基本的な生活習慣を身に付けること」、恒常的に「家庭学習に取り組むこと」等を推進していきたいと考えています。

今後とも、御理解と御協力を御願いたします。

《本校の学力調査結果の概要》

◆ 調査対象の3教科全てにおいて、全国及び県の平均よりも高い正答率でした。全体として、基礎的・基本的な学力は概ね定着しているといえます。

国語

- ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことに優れている。
- ・話し言葉と書き言葉の違いを理解している。
- ・必要なことを質問したり、相手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えることに優れている。
- ・条件を満たす文章を記述することに課題がある。
- ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。
- ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題がある。

算数

- ・「 1050×4 」など、掛けられる数に0(空位)がある計算の計算力が優れている。
- ・「14と21の公倍数」など、二つの数の最小公倍数を求める計算力が優れている。
- ・示された場面を解釈し、除法(わり算)で求めることができる理由を、記述する力に優れている。
- ・数量が変わっても、割合は変わらない場合があることへの理解に課題がある。
- ・場面において、目的にあった数の処理(適切な概数にする)の仕方を考えることに課題がある。
- ・正三角形の内角と外角の関係の理解に課題がある。

理科

- ・学習課題を解決するための、適切な観察の視点及び見通し持つ力が優れている。
- ・メスシリンダーという器具を理解している。
- ・実験結果から導き出された原理・原則を応用する力に課題がある。
- ・実験に必要な条件を具体的に考え、文章で表現する力に課題がある。

《本校の学力調査結果を受けての今後の取り組み》

国語 調査結果から、一定の条件の下で文章を記述すること、或いは「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること」に課題があることが明らかとなった。そこで、新たに実施する「Check & Action Weekend Studies」において、各学年とも、日記や作文を書くことを週末に必ず行うようにした。合わせて、「自分の考えをまとめる」事にも慣れさせていきたい。

算数 調査結果から、基本的な計算は出来ることが明らかになった。一方、実生活に即した問題や文章問題、或いは分度器などの器具を用いた問題に課題があることが明らかになった。そこで、学習したことを実生活に当てはめてみる学習経験や、文章問題、実際に分度器やコンパスを使いこなす体験活動を、より多く学習に取り入れていく。また、「Check & Action Weekend Studies」でも、取り組ませる。

理科 理科の学習にとって重要な観察・実験の大部分は、家庭では行えないことから、学校の授業が重要である。観察・実験を行うとき、なぜこの観察実験を行うのか、観察・実験の条件として必要なことは何かなどを児童に考えさせ、その考えを文章化できる力を育てていく。また、実験から得られた原理・原則を用いて、応用問題を数多く解く機会を設けることも重要である。

《本校の質問調査結果の概要》

◆ 質問調査に関しては、ほとんどの項目において良好な結果を示しています。

例えば、

- 自分にはよいところがある。
- 自分でやると決めたことは、やりとげるようにしている。
- 人が困っているときは、進んで助けている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う
- 学校に行くのは楽しいと思う。

については、肯定的に捉えている児童が、いずれも8割を超えています。

ここから、自己肯定感をもち、人間関係を大事に思うとともに、意欲的にたのしく学校生活を送っている児童が多いといった様子が見えてきます。このことは、御家庭においても、子どものよさを認め、あたたかい言葉かけをしていただいていると共に、本校の教育方針を御理解いただき、同一歩調で御指導いただいている賜と捉えています。

更に、学習に関する質問においても、

○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

○授業では、課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいる

などの項目においてよい結果が得られています。

一方、次の項目には課題が残ります。

● 普段（平日）どれくらいの時間、読書を読みますか。 （10分以下→46.6%）

● 新聞を読んでいますか。 （ほとんど読まない→68.9%）

《本校の質問調査結果を受けての今後の取り組み》

普段（平日）読書をしたり新聞を読んだりする児童が少ない、いわゆる児童における活字離れが進む一方で、平日に30分以上2時間以内の範囲内でいわゆるゲームをする児童の割合は55.5%となっています。これを踏まえ、秋の読書週間（「どんぐり読書」10/17～10/28）等を活用して、読書指導を積極的に行っていきたいと思っております。また、山梨日日新聞が無料で開放している「新聞活用学習支援サイト さんスタ」を、読書タイムに高学年は、一人1台端末を活用し、新聞に慣れ親しめるように取り組みたいと思っております。